

予 算 要 求 資 料

令和 4 年度 3 月 補正 予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 清流の国ぎふ花と緑の振興センター施設整備費（増額分）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

農政部 農産園芸課 花き振興係 電話番号：058-239-3163

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 4,032 千円 （現計予算額： 24,282 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	24,282	12,141	0	0	0	0	0	10,900	1,241
補 正 要求額	4,032	2,016	0	0	0	0	0	1,800	216
決定額									

2 要 求 内 容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

- ・ 令和 2 年度に国際園芸アカデミー有識者会議から、花と緑の産業を活性化させるために業界の壁を越えて産学金官が連携する「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」と、担い手育成及び産業振興の拠点となる「清流の国ぎふ花と緑の振興センター」の設置について提言を受けた。
- ・ 令和 3 年度は、コンソーシアムを設立し、花き振興企画コンペなど新たな取組みを始めるとともに、若手花き生産者等のニーズ調査を行い、振興センターにおける担い手育成支援について検討を行った。
- ・ 県内の花き生産を維持発展させるためには、これまで支援の行き届かなかった後継者や独立就農希望者等に対して、基本的な栽培管理技術の習得から多様な花き品目ごとの課題解決、さらには有利販売を行うための最新の経営情報の提供など、きめ細やかな支援が必要となっている。
- ・ 建設資材の価格高騰の影響により、増額が必要となった。

（2）事業内容

担い手育成・支援施設整備

技術研修の実習場所として、ドライミストや二酸化炭素発生装置など環境制御装置を備えた花き栽培温室を整備する。

(3) 県負担・補助率の考え方

清流の国ぎふ花と緑の振興センターは、県内の花と緑の産業の活性化を図るために設置する組織であり、県が負担することが妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費	4,032	温室建設工事
合計	4,032	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ①清流の国ぎふ花き振興計画（令和3～7年度）
- ②国際園芸アカデミー有識者会議報告書（令和2年度）

(2) 国・他県の状況

国では、花き振興法に基づく基本方針を令和2年に見直し、暑熱対策やスマート農業技術の導入などの栽培技術の向上により、生産者の経営安定を図っていくこととされた。

(3) 後年度の財政負担

清流の国ぎふ花と緑の振興センターは県が設置する組織であり、運営経費に関して、県が継続して財政負担する必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

県の組織であり、県が事業主体となることが妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

清流の国ぎふ花と緑の振興センターが運営する担い手育成支援施設において、県内花き生産者の能力向上を図り、経営安定を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
花き産出額	47億円	47億円	62億円	64億円	70億円	67%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p>
令和 3 年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 新型コロナの影響による冠婚葬祭等業務用需要の減少や家庭用需要の拡大などの花きの需要構造の急激な変化に対応する必要がある。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内の花と緑の産業振興の拠点として、需要の変化に対応した新たな商品づくりや担い手育成を進める。
--